

# 首都圏の中高生が鹿屋市の 農泊推進のアイデアを研究・発表

## 第6回「かのや100チャレ」成果発表会

鹿児島鹿屋市が首都圏の中高生に市の抱える課題の解決策をコンテスト形式で考えてもらう「かのや100チャレ」の第6回成果発表会が11月4日、都内の本郷中学校・高等学校で開催された。今年には過去最多の10校が参加し、さまざまなアイデアを競い合った。

### さまざまな波及効果も

「かのや100チャレ」は、鹿屋市が抱える100項目以上に及ぶ課題（主要施策）について、その実施策や解決策を首都圏の中高生にコンテスト形式で考えてもらうユニークな事業だ。地方創生の一環として15年度からスタートし、今年で6回目になる。首都圏とは遠く離れた鹿屋市の政策研究をしてもらうことで、地方の現状を知り、興味関心を持ってもらうきっかけにすることや、市の知名度向上とファンづくり、交流人口や関係人口の増加につなげていくのがねらいだ。事業への参加がこれからの教育に求められる主体性や表

現力の育成に資することもあり、学校側も積極的に、鹿屋への訪問や特産品の販売、学園祭等でのPRなど、さまざまな波及効果も生まれているという。もちろん提案されたアイデアの事業化も実現している。

今回の100チャレには新規参加も含め10校が参加。70人を超える中高生が集まり、成果発表を行った。各校の発表はプレゼン15分＋質疑応答10分。質疑応答は審査員の市関係者に加え、他校の生徒も質問できる。どちらかといえば生徒の方が厳しい指摘が多く、真剣勝負だ。

### 農泊推進をメインテーマに

18年度に市農泊推進協議会の事業

になったことから、現在のメインテーマは「農泊推進」。農泊を知っていた生徒は少ないはずだが、よく研究され面白いアイデア揃いだ。例えば、農業従事者の確保策として失業者や路上生活者を呼ぶ込むことを考えたたり、AIを活用した観光PRで国のモデル事業や補助制度の活用まで踏み込んだ提案には目を見張らされた。

調査もインターネットなどで調べただけでなく、アンケートや聞き取りを実施するなど本格的。また、プレゼンも劇仕立てにするなど工夫が凝らされて完成度も高い。

そうした中で最優秀賞を獲得したのは本郷中高だった。同校には「社



プレゼンもドラマ仕立などさまざまな工夫が凝らされていた「かのや100チャレ」の成果発表会。

会部」があり、その部員たちが丁寧なターゲット分析をしたうえで「都市では学べない生きた学びを提供する」魅力的な「旅育」のモデルプランを提案した。最優秀チームは鹿屋に招かれ、現地で事業提案を行う。

最後に宮地修平副市長は、「鹿屋を通じてこの地でみなさんとお会いできたのは何よりの宝。この大切な日を境に鹿屋市もますます頑張っていきたいし、みなさんにも盛大なるエールをお送りしたい」と挨拶した。本郷中高以外にも大人にはない感性によるキラリと光るアイデアが散りばめられていた今回の提案と生徒たちとのつながりを、ぜひ今後に活かしてほしい。